

関連する内容項目：4－（1）

公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。（解説p.59）

事例

場面1 第6学年社会科「日本国憲法」に関する単元での指導

法やきまりを守ることは社会生活を営む上で大切なことです。第6学年の社会科では日本国憲法の内容や憲法に定められた人々の願いを学習します。国民は権利を正しく行使する一方で、義務を果たす必要があることを理解し、法やきまりを守り、自分に課された義務をしっかりと果たす態度を育成することが重要です。

法やきまりの意義を理解させるために、このような指導が考えられます。



授業の展開例「基本的人権の尊重」

題材名	目 標	学 習 活 動
基本的人権の尊重	基本的人権や国民の義務を守っていくことの大切さに気付くことができる。	1 憲法に、国民の基本的人権がどのように定められているかを調べる。 2 私たちの生活において、基本的人権が守られているかどうか考える。 3 国民の義務について調べる。 4 一人一人の基本的人権を守ったり、義務を果たしたりするために必要なことについて話し合う。

「〇〇の権利がなかったら、私たちの生活はどうなるだろう。」と問い掛けることで、法を守ることが私たちの生活の安定のために重要であることを考えさせましょう。

「国民が義務を果たさなかったら、私たちの生活はどうなるだろう。」と問い掛けることで、義務を果たすことが私たちの生活の向上のために重要であることを考えさせましょう。

自分の権利を大切にするとともに他の人の権利も尊重することにより、社会生活の向上につながることに気付かせるようにしましょう。

【指導上の留意点】

- 日本国憲法に保障されている基本的人権の尊重には、人々のどのような願いが定められているかを考えさせ、願いを実現するためにも憲法を守ることが大切であることに気付かせましょう。
- 授業以外の場でも、学校生活の中でのきまりが学校生活の向上にどのように役立っているかを考えさせることで、法やきまりの大切さに気付かせることが大切です。

場面2 学級活動(2)「情報モラル」に関する指導

インターネットや携帯電話が身近なものとなり、メールの利用により人間関係に負の影響を及ぼすことが見られるようになりました。そのため、学級活動など、様々な場面で情報モラルについて指導を行い、児童が陥りがちなトラブルについて具体的に指導していくことが大切です。その際、さまりや基本的なモラルなどの倫理観を育成する観点から、児童が法やさまりの意義を理解し、遵法の精神を持つところまで高めていく必要があります。

インターネットで
「迷惑メール」

Aさんは、仲よしのBさんと遊ぶ約束をするために、夜の10時過ぎにBさんの携帯電話に電話をしましたが、出ませんでした。その後、Bさんに「なんでも電話に出ないの! (´・`´) (怒)」というメールを送りました。翌朝、BさんからAさんに「遅い時間に、電話やメールはやめてよ!」というメールの返信が届きました。その日二人は遊ぶこともなく、その後、口も利かなくなりました。



皆さんは、Aさんの行為をどう思いますか。

携帯電話だと、気軽に電話してしまいますが、夜遅く電話することは、迷惑になると思います。



携帯電話などを使う時は相手のことを考えることが大切です。

親子で携帯電話やインターネットの使い方のルールづくりをしよう

将来、携帯電話を使用する前に、小学生の段階から指導することが大切です。授業参観の機会に、親子で携帯電話やインターネットの家庭での使い方のルールづくりをすることも効果的です。

ルールづくりのポイント

- 親子で話し合いながらルールを決めましょう。
- ルールを守れなかったときにどうするかを決めておきましょう。

ルールづくりを通して、さまりの必要性を考えさせ、守ろうとする心を育成しましょう。

【指導上の留意点】

- ・情報モラル教育は「心を磨く領域」と「知恵を磨く領域」の両面をバランスよく指導する必要があり。 「心を磨く領域」として、ルールやマナーを守れる児童生徒の育成を図ることが大切です。

★学級懇談等で、保護者同士が情報交換できる場を設け、学校と家庭で連携して指導できるようにしましょう。

「心のノート」との関連 「ぐるりとまわりを見渡せば」 (pp. 80-83)

「ルール・マナー教材集」との関連

「見えない相手とかかわること」 (pp. 41-43) 「家族みんなで考える情報モラル」 (p. 72)

「情報モラル育成資料集」との関連

「わたしが送ったメール」 (pp. 15-17) 「ルールやマナーを守る」 (pp. 28-31)

関連する内容項目：2－（3）

互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。（解説p.56）

事例

場面1 学級活動（2）「男女の協力」に関する指導

男女の違いを尊重し、互いのよさを見付けながら、男女仲よく協力し助け合う態度を育成することが重要です。「協力し助け合う」ために、異性に対しても、信頼を基にして、正しい理解と友情を育て、協力して助け合おうとすることに配慮して指導することが大切です。



男女で協力ができなかったことがありますか？
それはなぜですか。

- ・クラブでグループをつくったら、恥ずかしさで男女が分かれてしまいました。
- ・体育の時、誰かに冷やかされそうで、フォークダンスで男女がなかなか手をつなぐことができませんでした。



男女で協力ができなかったことがあるようですね。
男女が協力するためにはどんなことに気を付けたらよいか、グループで話し合ってみましょう。



振り返りカードを活用しよう

話し合いで出された意見から、各自が男女で協力するためのめあてをつくり、日常生活で実践する場を設けましょう。その際、振り返りカードを使い、自分を振り返らせるとともに、うまくいった例を紹介して学級に広め、みんなで助け合う学級の雰囲気づくりをしましょう。

男女協力振り返りカード 名前（ ）

◎よくできた。○できた。△できなかった。	/	/	/	/	/
自分のめあて []					
① 男女関係なく人の意見を尊重することができた。					
② 男女で協力できた。					

【指導上の留意点】

- ・話し合いを通して、男女それぞれの自分の思いを伝え合い、相手のために自分に何ができるかを考えることで、信頼を深めていこうとする態度を育てるようにしましょう。
- ・話し合いで出た意見からクラスのめあてをつくり、日常生活で意識させることで男女が互いに信頼し、仲よく協力し合うことの大切さを考えさせるようにしましょう。

場面2

一部の児童の意見で進行してしまう話し合いへの指導

自分の意見を主張するあまり、相手の意見に耳を傾けない児童が見受けられます。一方で、自分の意見を持ちながら周囲に伝えられず他人の意見に同調してしまう児童もいます。「人々と助け合う」ためには、異なる意見に耳を傾けさせたり、相手の気持ちを考えながら意見を表明させたりすることで、互いに尊重し合い信頼し合える人間関係を育てていくことが重要です。

例えばこんな場面が見られたとき...

Aさんのグループではお楽しみ会について話し合っていました。

Aさんは活発な男の子で、男子が好きなサッカー大会をしようという意見を出しました。グループの中には、みんなで楽しめるクイズ大会がよいと考えている友達もいましたが、Aさんが「サッカー大会でいいよね。」とみんなの意見を聞こうとしないので言い出せませんでした。

【Aさんへ】 自分の意見を主張するだけで、話し合いをしたと言えますか。みんなの気持ちを考えながら話を聞くためには、どうしたらよいですか。

自分の意見だけを主張するのではなく、みんなの意見を聞く。

自分勝手にならないように、みんなのことを考える。

決め方について話し合い、みんなの意見をまとめる。



【グループのみんなへ】 自分の意見を持っているのに黙ったままでは、よい話し合いと言えますか。どのように自分の意見を言ったらよいでしょう。

まずは自分の意見を伝えてみる。

相手が嫌な気持ちにならないように話す。

理由を付けて提案する。



話し合いでは、相手の意見をよく聞き、自分の意見もきちんと伝えられることが大切です。そんな話し合いができると、互いに尊重し合い信頼し合える学級になりますね。



【指導上の留意点】

- 話し合い活動では、司会、記録及び発表などの役割について理解させることが欠かせません。また、司会などの役割を順番にやらせて、全員にそれぞれの役割の大切さを実感させましょう。
- 話し合い活動を通して、自分の考えを伝えたり、相手の意見を聞いたりしながら、折り合いを付けることを指導していきましょう。

「心のノート」との関連

「友だちっていいよね」(pp. 48-51)

「学業指導の充実に向けて」との関連

「グループ活動の充実〈小〉」(p. 10)

関連する内容項目

- 2- (4) 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。(解説p.57)
 2- (2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。
 (解説p.56)

事例

場面1 総合的な学習の時間 高齢者福祉施設訪問の事前指導

高齢者福祉施設を訪問し、施設を利用している高齢者（利用者）と会話をしたり、触れ合ったりする機会を通して、年齢や生活環境などが自分と異なる立場の方々の思いを理解しようとする態度を育成することが大切です。



利用者の方々に喜んでもらうためには、どんな話し方を心掛けるとよいでしょう。

答えやすく、楽しくなるような内容の話をしたり、笑顔で話し掛けたりします。



大きな声で話したり、目線の高さを合わせて語り掛けたりします。



利用者の方々と、ゲームをするときは、どんなことを心掛けるとよいでしょう。

ルールが分かってもらえないときは利用者の方々にもできるルールに変えて、ゲームを楽しんでもらえるように工夫します。



どの意見も利用者のことを大切にされた対応ですね。相手の立場で考えることや相手の思いを理解しようとする態度が大切なのですね。

【指導上の留意点】

- ・利用者の方々への対応について準備しておいたとしても、それとは異なる状況になる場合もあります。相手やその場に合った対応が必要になることを指導しておきましょう。
- ・利用者の方々は、様々な理由で施設を利用しているということを理解させた上で、思いやりの心を持って、自分と異なる方々の立場を尊重しようとする心情を育てるようにしましょう。

場面2

異学年交流（共遊）

異学年との交流を通して、自分と異なる意見や立場にある下級生の意見を聞き入れ、下級生の思いや願いを受け止め、対応できるような広い心を持てるように指導していくことが大切です。

例えばこんな場面が
見られたとき...

異学年交流の時間のドッジボールで、特定の高学年の児童がボールを独り占めして全力で投げ合ったり、勝敗にこだわって下級生のミスで負けたと一方的に非難したりして、同じチームのメンバーが暗い雰囲気になってしまいました。

皆さんが1・2年生の頃、高学年の人たちにしてもらってうれしかったことはどんなことでしたか。



上級生は、下級生に対して、ボールをやさしく投げてくれました。

上級生は、自分で取ったボールを、僕に渡してくれました。僕が投げたボールは簡単に取られてしまったけれど、うれしかったです。



相手の立場を大切にすることで、お互いにうれしい気持ちになれるのですね。高学年という立場で、どのような行動をとると、みんなが楽しめますか。下級生の思いや願いを受け止められる高学年になって欲しいと思います。

【指導上の留意点】

- みんなで楽しむためには、高学年という立場でのふさわしい行動やチームのみんなの気持ちを優先することも大切だと気付かせましょう。
- 高学年としてのリーダーシップについて考えさせ、自分たちが学校をまとめる重要な役割を担っていることを認識できるように指導しましょう。

「心のノート」との関連

「あなたの心にあるそのあたたかさ」(pp. 44-47)

「よりそうこと、わかり合うことから」(pp. 52-55)

関連する内容項目：4－（3）

身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。（解説p.60）

事例

場面1 第5学年家庭科 調理実習での指導

調理実習の際、計画の段階でグループごとに役割や材料の分担をします。また調理実習中は、材料を洗う・切る・食器を準備する・盛り付ける・片付けるなど、計画に沿って進めます。

集団の中で自分の役割を果たすためには、一人一人が積極的に調理に関わり、グループのために役割を自覚して責任を果たし、みんなの役に立とうとする態度を育成することが重要です。



今日の調理実習で、自分の役割はきちんと果たせましたか。

僕は包丁を使うのが得意だから、野菜の皮をむいたり、切ったりしました。その他にも、僕ができることは何かを考えて行動しました。



野菜が切ってあってすぐに炒められたし、お皿を出してもらったので、盛り付けもスムーズでした。みんなで協力したら、早く出来上がりました。



役割を果たすことがみんなのためになるんですね。どの役割も全部必要で、みんなのためにやろうと思う気持ちがあったから、今日の料理が完成したんですね。



【指導上の留意点】

- ・調理実習を通して、料理が完成した喜びを感じ取らせることにより、グループで協力して活動し、一人一人の役割を果たす大切さに気付かせるようにしましょう。
- ・協力して働くことの意義を理解させることを通して、社会の役に立とうとする心構えにつなげていくことも大切です。

場面2

帰りの会での縦割り班清掃活動についての指導

縦割り清掃班では、1年生から6年生までと一緒に活動するため、適切な役割分担を決めて協力して清掃をすることが必要となります。そこでは、高学年がリーダー的存在としての役割を果たすことの大切さを学びます。

例えばこんな場面が
思われたとき...

班長のAさんが、清掃場所に行くと、先に来ていた3年生のBさんがほうきを使って床をはいていました。Aさんは「ほうきは私の分担だよ。」と言い、ほうきを取り上げようとした。Bさんが「ずっと雑巾ばかりで、わたしもほうきを使いたい。」と言うと、Aさんは「3年生は、雑巾で床をふくんだよ。」と決めつけて言いました。Bさんは、すっかりやる気をなくしてしまいました。

その日の帰りの会でこの話題を取り上げて、

清掃班のみんなが自分の役割を果たし、意欲的に清掃に取り組むようにするには、班長としてどんなことができるでしょう。みんな
で話し合ってみましょう。



私の班では、清掃ロッカーにローテーション表を貼
っておいて、みんながいろいろな仕事をするようにし
ています。

低学年と高学年がペアになって、雑巾やほうきの使い方
を教え合ったら、うまくいきそうです。



高学年だからこそ、自分だけのことを考えるのではなく、下級生にも
気を配ることが大切ですね。下級生に、「班長さんのような高学年にな
りたい。」と思われたら、うれしいですね。

【指導上の留意点】

- ・児童一人一人に自覚や責任感を持たせ、自ら率先して行動していくという意識を高め、班で協力しながらみんなの役に立つことを実践していくよう指導していきましょう。
- ・清掃活動の他、児童会活動の「1年生を迎える会」など、学校生活の様々な場面で自分の役割を果たそうとする気持ちや、下級生に対して配慮しようとする自覚を高めていくことが大切です。

「心のノート」との関連

「働くってどういうこと？」(pp. 92-95) 「集団の一員という自覚」(pp. 114-115)

「ルール・マナー教材集」との関連

「ひとりみんなのために」(pp. 21-23)

「学業指導の充実に向けて」との関連

「清掃の役割分担〈小・中・高〉」(p. 9)

関連する内容項目：2－（1）

時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。（解説p.56）

事例

場面1 第5学年国語「場に応じた適切な言葉遣い」に関する単元での指導

中学年までの言葉遣いに関する学習を基に、その場に応じた最も適切な表現を考えさせることを通して、時と場をわきまえて、礼儀正しく真心を持って接する態度を育成することが重要です。また、礼儀作法の大切さを考えさせることなどを通して、自然な言動として心の込もった接し方ができるように指導していく必要があります。



改まった場や目上の人に対するインタビューを想定して二人組になって練習してみましょう。終わった後、お互いにどんな気持ちだったか、伝え合いましょう。

相手が答えやすいように心を込めて質問しました。「です」「ます」を使って丁寧に話しました。

インタビューの練習の後で



大切なことが分かるようにゆっくり質問してくれたので、答えやすかったです。丁寧な言葉で質問されると気持ちがいいです。

インタビューする人 インタビューされる人



インタビューする人は、相手のことを考えて質問していたようですね。インタビューされた人にもそのことが伝わっていたようです。相手の立場に立って、心の込もった受け答えをすることが大切です。

【指導上の留意点】

- ・インタビューされた相手がどのような気持ちでいるのかを確認するとともに、自分もインタビューを受けることで、時と場に応じた言葉遣いの大切さを実感させることが大切です。
- ・礼儀正しい態度は、相手を尊重する気持ちが自然に言葉や態度に表れるものであり、形だけ真似しても真心は伝わらないことに気付かせることが大切です。

場面2

芸術祭（音楽祭）での指導

学校以外で行われる芸術祭などのように、保護者の方々に協力してもらったり、会場で様々な人々にお世話になったりすることがあります。

お世話になった方々に対して心を込めてあいさつをすることや、芸術祭という場にふさわしい振る舞いや態度をとれるように指導していくことが大切です。

例えばこんな場面が見られたとき...

本番前に、ステージの奥にある練習室へ移動するとき、緊張感や興奮のあまりに話し声がどんどん大きくなり、会場のスタッフから「静かにしてください。」と注意を受けてしまいました。

また、保護者から「会場まで手伝いに行ったのに、子どもたちからはあいさつの一言もなかった。」という内容の電話が学校に入りました。

皆さんは一生懸命に練習し、本番でも練習の成果を発揮することができました。しかし、自分たちのことだけでなく、周りの人々のことを考えることができましたか。あなたの行動を振り返ってみましょう。



振り返りカード 「自分の行動を振り返ってみましょう」

○か△

1	会場でお手伝いをしてくださった人や楽器を運んでくださった人に、心を込めたあいさつができましたか。	
2	他校の演奏に、心を込めてはく手をすることができましたか。	
3	静かに移動することができましたか。	
4	自分勝手な行動をせずに、周囲の人たちのことを考えた行動をとることができましたか。	
5	指導してくださった先生方や応援してくださった人たちにお礼やあいさつなど感謝の気持ちを表わすことができましたか。	



自分のことで精一杯だったので、周りのことを考えていませんでした。

音楽祭は、多くの人たちに支えられて行われていたことに気がきました。



【指導上の留意点】

- 相手の立場を考えたり感謝の気持ちを持ったりすることが、児童のよりよい行動につながります。視野を広げ、適切な状況判断ができるように指導しましょう。
- 学校でも、周囲の状況を考えて行動する場面が多くあります。その場に合った行動ができているか機会を捉えて振り返らせ、できていないときには、どうしたらよいか具体的に指導することが大切です。

「心のノート」との関連

「心と心をつなぐネットワーク」(pp. 40-43)

「ルール・マナー教材集」との関連

「心をつなぐことばかけ」(pp. 25-27)